

令和元年度 見学研修会報告

今年度の見学研修会は、7月30日(火)に千葉県立中央博物館(千葉市中央区)において実施しました。午前は学芸員の先生のご指導のもと「アクティブ・ラーニング」を学ぶワークショップを行い、午後は館内の展示を案内していただきました。その概略を報告します。



ラムづくりを通して考えること、そして、その活動全体を通して、アクティブ・ラーニングがどのようなものであるのかを体験的に学ぶというものでした。

4人一組で8つのグループに分かれて、以下の3つのステップで活動をしました。



1 開会行事

- ・ 部会長挨拶

県立柏高等学校校長
太田 恭正 先生

- ・ 会場代表挨拶

千葉県立中央博物館
生態・環境研究部 生態学・環境研究科
上席研究員
林 浩二 先生

林先生は、博物館、図書館、公民館、美術館などの社会教育施設が地域の学習資源として果たしている役割についてお話をしてくださいました。

2 講演及びワークショップ

「持続可能な社会のための教育を考える」

林 浩二 先生

この研修の目標は、地球が持続していくための課題解決に取り組む教育(ESD)や数学を社会に役立てるための指導について、数学と他の教科との教科横断的な学習のカリキュ

① 「SDGs」について学ぶ

第一段階は、地球が持続していくために2030年までに世界が達成すべき目標として国連総会が採択した、「持続可能な開発目標(SDGs)」について学びました。

17個の目標を、グループごとに「先進国」または「途上国」の立場になって、各目標についての書面での解説を参考にしながら、大事な順にダイヤモンドランキングという手法で並べました。

この活動を通して、SDGsについて、短時間で理解することができました。

② 「社会と数学のつながり」を探す

第二段階は、現実の社会と数学との関わり合いを見つけるために、グループでブレインストーミングを行いました。これにより、たくさんのアイデアを得ることができました。

③ 「社会に役立つ数学」のカリキュラム・指導案づくり

第三段階は、社会に関わる数学について、生徒に何をどのように指導するのかを考え、カリキュラムと指導案を作成するという作業を行いました。

グループ内での討議を約1時間にわたり行い、最後に各班の成果を代表者が発表し合い、共有しました。

3 館内見学1

企画展 「ほにゅうるい」 ツアー

千葉県立中央博物館
自然誌・歴史研究部
動物学研究科 研究員 下稲葉 さやか 先生



「ほにゅうるい」展の案内・解説をしていただき、ツノシマクジラの骨格の標本や館内の剥製に関する事など、いろいろなお話を伺いました。

展示を行う上での、剥製づくりや、寄贈された剥製の運搬、カビ防止などの保存上のこと、資金面でのことなど、資料の収集から展示に至るまで、学芸員の先生方の陰のご苦労を知ることができました。

4 館内見学2

常設展 ハイライトツアー

林 浩二 先生

中央博の数ある展示物の中から、林先生が選りすぐって、案内と解説をしてくださいました。



ジオラマ等の展示物を用いて、有害物質の生物濃縮に関することや、生物多様性について、種数の多様性、遺伝的な多様性、生態系の多様性のことなど、様々なお話を聞かせていただきました。

5 閉会式

・副部会長挨拶

千葉女子高等学校校長
釜薙 德行 先生

・会場代表挨拶

林 浩二 先生